

Art Truck Project News

* アートトラック・プロジェクトニュース December 2013

VOL.5

特集：アートトラック・プロジェクト完成披露

祝！アートトラックが完成しました！



1号車(10t)

4月にスタートしましたアートトラック・プロジェクトのアートトラックがこの度完成し、10月21日、九州配送センターにおいて完成披露セレモニーが行われました。

当日朝はあいにくの曇り空で、小雨もちらほら降っていましたが、セレモニーが開始されると晴れ間が出てきました。当日は、社員をはじめ、だんだんボックス実行委員、アートを描いて頂いた、ひまわりパーク六本松の皆さん、来賓の皆さんが出席され、トラックの登場時には、大きな大きな拍手でアートトラックを出迎えました。



2号車(4t)

10月31日、福岡市美術館玄関前の駐車場をお借りして4t車のお披露目を行いました。10t車のような式典は行わなかったのですが、アートを描いて頂いた、ひまわりパーク六本松の皆さんをお呼びしてささやかなお披露目の会をすることができました。

4t車は福岡市内を運行するので、トラックの走っているところが見られると皆さん大変喜んで下さいました。ボックス内の冷たさを体感したり、運転席に座ってもらうなどしてトラックを身近に感じてもらえ、微笑ましい、心が和む、お披露目の会になりました。

アートトラック・プロジェクトによせて



福岡運輸株式会社
代表取締役会長 島田隆士

知的障がい者へのさまざまな援助活動を続けておられる、細川元総理の細川佳代子さんは「障がいを持った子供たちが、どうして生まれたのか。誰にも分からぬ。ただ、その子供たちには何の責任もないことだけはハッキリ言えます。しかし、周りの人たちの彼らを見る目は冷たい、どうして温かい目が向けられないのか。生きる資格がないのか。生きている価値がないのか。そんなことはない。“健常者が障がい者を見ることによって、何の異常もない健康な体に生まれたことはありがたいと自覚する”という大事な役割を果たしていることを解って欲しい。そして、彼らに温かい手を・・・」と訴えられています。私も全く同感です。

また、10月13日のソウルでの知的障がい者たちのプロ楽団『JOY俱楽部ミュージックアンサンブル』のコンサートでは、その演奏が終わると大きな拍手が湧き、聴衆が総立ちになって、アンコールを求める声が鳴りやまなかったといいいます。知的障がい者だけが持つ、豊かな感情が素晴らしい旋律を生み出したのです。今、障がい者たちはしっかりと生きているだけでなく多くの人々に“感動”すら与えています。しかし、日本の社会はそんな障がい者たちを普通に受け入れようとはしていません。誠に残念なことです。

そんな中、福岡にある「だんだんボックス実行委員会」からの要請に応じ、当社で『アートトラック・プロジェクト』を創設し、アートトラックの完成を目指しているという報告を受け、大いに喜びました。

去る10月21日の完成披露式で観た、アートトラックには感動しました。恐らく障がい者にしか出来ない描写と色彩、これは、全くの驚きでした。観るアートではなく、感じるアートです。そして障がい者たちの嬉しそうな顔、顔、顔・・・そのトラックは今日本中を走っています。彼らの“感性と悦び”を乗せて福岡運輸のトラックが走っています。必ず、『アートトラック・プロジェクト』に参加した社員の思いが、日本中に届くと確信しています。

そして前述のJOY俱楽部施設長 木本ひとみさんのお願い「障がいがあつても自分らしく生きるために選択肢が用意されている社会」このことを実現するために『アートトラック・プロジェクト精神』をもっともっと拡げていきましょう。



福岡運輸株式会社
代表取締役社長 富永泰輔

まずは実行委員会の白石さん・宮本さん・室屋さんありがとうございました。3人の半年間の頑張りによって、素敵なアートトラックが作成されました。

このプロジェクトは創立記念日である10月1日に向けて、ちょっとしたことでいいから、CSR(社会貢献)活動ができないかなと考え始めたのがきっかけです。式典の挨拶で話をしましたが福岡運輸としてCSR活動を行う上で3つのルールを考えていました。1つ目は福岡運輸らしいもの。2つ目は瞬間的なものでなく長く残るもの。そして3つ目としては、私個人が一人頑張ってやっているのではなく、会社全体として社員が理解し、取組みをするというものでした。

そのようなことを考えている中で、だんだんボックスとの出会いがあり、何回か打ち合わせをし、これならば3つのルール全てを満たすことができると確信しました。初めての試みですから、若い人達にやってもらいたいと、所属長からの推薦によって、3人を実行委員としました。忙しい業務の時間をやりくりして作り上げるまで、彼らの努力は勿論だとは思いますが、周りからのサポートもたくさんあったと思います。ありがとうございました。

式典に際しての、実行委員会に対する指示は唯一、「我々列席者を楽しませてくれ、驚かせてくれ。」だけです。若い彼らにとっては、逆にやりづらい指示であったかもしれません、試行錯誤の末、多くの方に参加していただき素晴らしい式典を行うことができました。

大型車は九州～関東を走ります。多くの目に触れることでしょう。アートトラックプロジェクトの本当の評価はこれから始まりますが、きっと我々の想いを全国に届けてくれるでしょう。本当に皆さんありがとうございました。



福岡運輸株式会社
執行役員 浦田昭蔵

この度は、アートトラックの完成、誠におめでとうございます。そしてお疲れ様でした。

皆さまの思いと夢がたくさん詰まった素晴らしいアートトラックだと感激しています。ひまわりパーク六本松のお二人が描いた絵は、全国の子供たちを笑顔にし、みんなをあたたかい、幸せな気分にしてくれると思います。

このアートトラックが、全国を走ることで、障がいを持っておられる方々が活躍し、自立出来る場があり、また、支援出来る方法もある事を知って頂ける手助けになればありがたいと思います。

アートトラック・プロジェクトによせて

私達「ひまわりパーク六本松」の全員を、お披露目の式典にご招待いただきまして、誠に有難うございます。また、バスまで手配していただき、福岡運輸様の細かなご配慮に感謝申し上げます。

私は施設長の廣渡でございます、事業所を代表し、事業所について、また、二人の作家の紹介をさせて頂きます。この度は福岡運輸様に、利用者二人の絵を採用して頂きまして、誠に有難うございます。本人ご家族はもちろんのこと法人含めてみんな喜んでおります。二人の思いを乗せたトラックが、全国を走る光景を想像し嬉しく感じております。

私たちの事業所は、障がい福祉サービス事業所「ひまわりパーク六本松」と言い昨年4月に開所しました。福岡市の中心地にあり、近くには大濠公園や美術館があり、とても恵まれた環境にあります。母体は社会福祉法人「福岡市手をつなぐ育成会」です。5施設を運営し、また福岡市から動物園等の清掃作業を受託して障害者の雇用も積極的に進めています。当事業所には現在知的に障害のある32名の方が利用されています。利用者の平均年齢は44歳で職員45歳、共に経験豊かなメンバー構成です。事業所の特色は、アート活動を仕事としているところです。毎日仕事として絵を描き、その作品をカレンダーや一筆箋等の文具に商品化しています。だんだんボックス委員会様に仲介して頂き、今回のように企業とのコラボによる商品化も進めております。また、事業所単独で段ボールアート展を開催したり、他の事業所と共同でイベントを行ったりと、障がい者に対する啓発活動も積極的に行っております。今年はさらに音楽活動も開始し、11月8日に福岡大丸でのイベントにデビューいたしました。今後も障がいを個性として捉え、可能性にチャレンジしていきたいと思っております。

続きまして作家の紹介をします。二人は共にひまわりパーク六本松を利用される前は、20数年間植物園で清掃作業に従事されていました。8年前、当時の支援員との出会いがきっかけとなり、絵を描くことが始まりました。雨の日や仕事が終わった後等に少しづつ。仕事以外の余暇としての取り組みであったと思います。絵を描く楽しみを知り、描いていく中で力をつけ、そして今回のように評価を受けるようになりました。

■川崎光義さん（59才） 2005年から余暇活動として絵画制作を始めました。働く場が植物園であり、四季折々の花に囲まれた環境であったことから、その影響を受け、花や動物、少女や鳥で画面を覆い尽くすスタイルからスタートしました。繰り返されるユートピアに、教会や花火も登場するようになり、3年前福岡コアサイドアート展で、「青い教会」が最高賞である市長賞を受賞しました。絵画だけでなく他の仕事も希望される方が多い中、ひたすら毎日絵を描き続けるほど描くことが好きです。いつもにこにこしながら楽しげに描いています。クリアファイルや一筆箋など事業所の商品にも多く商品化されています。今回のことは長年真摯にこつこつと取り組んできた成果です。このような形で評価されることを、本人ご家族共に大変喜んでおられます。



ひまわりパーク六本松
・施設長 廣渡智恵子(右)
・アーティスト 川崎光義(左) 秋穂治巳(中)

■秋穂治巳（44才） いつも誰よりも汗だくになるまでよく働きまた誰よりも熱心にもりもりと絵を描くのが、公園清掃当時からの彼の日課です。最初は波模様のような抽象的な絵が中心でした。それがだんだんと具象化し、無作為なスピードでモチーフのエッセンスをすくい描き上げることを得意としています。福岡コアサイドアート展において2回入賞しています。毎日画用紙が間に合わないほどたくさん描いています。事業所の商品に留まらず、だんだんボックス様のご協力による企業商品にもたくさん採用され、高い評価を頂いています。いつも一番に事業所に出勤し、「今日も元気ぱりぱりです」と、元気なポーズで皆を出迎えてくれます。働くことをいとわずみんなの為に目立たずして仕事している姿には頭が下がります。

これまで二人の紹介を終わります。誠にありがとうございました。



だんだんボックス実行委員会
代表 神崎邦子

こんにちは、だんだんボックス実行委員会代表の神崎邦子です。このアートトラックが完成して、ひまわりパーク六本松の皆さんと一緒にお披露目を迎えることができ、ほっとしておりますし、嬉しい限りです。

福岡運輸株式会社の富永社長には、趣旨に賛同いただいて、福岡運輸さまのCSR活動の一貫として取り組んでくださって、本当に感謝申し上げます。会社の中でも、たくさんの方々がアートトラックニュースの原稿を書かれていて楽しく読ませていただきました。白石さん、室屋さん、宮本さん、大変お世話になりました。

今回のプロジェクトをきっかけに、私たちだんだんボックスのことを知っていたのももちろんありがたいのですが、やはり、今回のひまわりパーク六本松をはじめ、アーティストの方々の作品のすばらしさに触れていただいて、これからも親しんでいただけたら嬉しいです。

だんだんボックスの取り組みとしても、トラックに絵を載せるというのは初めてです。このトラックが全国を走って、皆さん方に、やさしい気持ちを運んでくれたらいいなと思っております。完成おめでとうございます。そして、福岡運輸さまのますますのご発展を心よりお祈りいたします。ありがとうございました。



お披露目式典みんなの声



アートトラックの完成につきましては
誠におめでとうございます。

色々な調整や、苦労もあったかと思いますが
完成車そして走っている姿をみれば
その事も良い思い出となると思います。

心温まる車ができて良かったですね。
預かる社員すべて、そう思っております。
皆様方の想いを全国にお届けできればと思います。
ありがとうございました。

福岡運輸株式会社 福岡支店
次長 梅野康博



お披露目会の様子が多く新聞に掲載され
原画作成に関わったひまわりパーク六本松
の皆さんや、当社の活動が
広く紹介されました。

このとても温かく
心優しい車両を心から嬉しく思います。

福岡運輸株式会社 業務推進部
業務課 課長 松尾 彰



アートトラックの完成、おめでとうございます。

プロジェクトメンバーの方々には計画遂行にあたり多々ご苦労が
あったと思いますが、とても素敵なお絵が描かれたトラック2台が
納車されて私は感動いたしました。

色彩と構図に独特な感性があり、このトラックが街中を走ることを
考えるとワクワクいたします。担当ドライバーの湯浅さん、土井さんも
プロジェクトの趣旨に賛同して、車両はいつもピカピカ、安全運転で乗務すると
張り切っています。社会貢献活動の今後の拡がりに期待いたします。



福岡運輸株式会社 福岡支店
支店長 平山真也

きれいな色合いで描かれたアートトラックを拝見し
とても温かい気持ちになれました。
素晴らしい才能を持ったひまわりパークの方々
の笑顔も見ることができました。
この素敵なトラックが、全国を走っている
と思うと嬉しくなります。
だんだんボックスを成功させてくださった
実行委員のみなさん、本当に疲れ様でした。
福岡運輸株式会社 福岡支店
業務係 永田涼子



冷凍BOXに描かれた絵を見て感じたこと
それは温かみがあり、見る人の心を常春のような
心地良い気分、また癒される感じを受けました。
健常者である私たちが
障がいのある方々に出来ることは何か。
社会共同生活の中で
どのように支えていくことが出来るか。
絵を見ながら強く思いました。

福岡運輸株式会社 業務推進部
購買課 主任 稲富博則



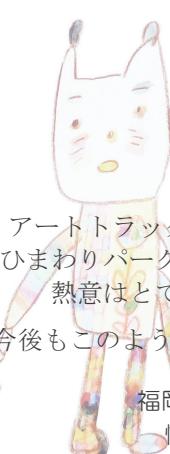
アートトラックが登場したとき
ゾクっと鳥肌がたち感動しました。
かわいい絵で素晴らしいです。
この度はおめでとうございました。

福岡運輸株式会社 業務推進部
業務課 田中のぞみ



アートトラックの完成、おめでとうございます。
ひまわりパーク六本松の皆様の絵に込めたパワー
熱意はとても素晴らしい感動致しました。
今後もこのような活動が永く続くことを願います。

福岡運輸株式会社 業務推進部
情報システム課 藤 鉄矢





富永社長からひまわりパーク六本松へ
感謝状の贈呈



ひまわりパーク六本松から富永社長へ
ひまわりパークオリジナルカレンダーの贈呈

アートトラック・プロジェクトの 輪！

10月21日 福岡運輸配送センターにて10t車完成披露



実行委員メンバーと島田会長 「ヤッター！」



富永社長とアーティストの川崎さんと秋穂さん
ひまわりパーク廣瀬施設長とだんだんボックス神崎代表



富永社長と実行委員会メンバーと
だんだんボックス実行委員会のみなさん



待ちに待った2号車(4t)の到着です！

アートトラック・プロジェクトの輪！

10月31日 福岡市美術館玄関前にて4t車完成披露



ひまわりパーク六本松のみなさん 「ヤッター！」



トラックの運転席に乗車の秋穂さん、川崎さん



冷凍ボックスの中に興味深々！

アートトラック特集

10t



川崎光義さん

秋穂治巳さん

川崎光義さん



川崎光義さん

ひまわりパーク六本松
<http://www.fiku.jp/park>

送輸温定輸運岡福 *

福岡運輸は、障がいのある方々のアート活動を応援しています。

ひまわりパーク六本松
<http://www.fiku.jp/park>

秋穂治巳さん

NO.7126

4t



川崎光義さん

秋穂治巳さん 川崎光義さん

秋穂治巳さん



展示会だより

東京トラックショー 2013 に出展しました！



10月24日～26日に東京ビックサイトにて『東京トラックショー 2013』が開催されました。

株式会社矢野特殊自動車様のご厚意で、アートトラックを展示していただけることになりました。

26日、私たち3人も会場に向かいました。心配していた大型台風も南に逸れて、飛行機は無事到着しました。ビックサイトの会場では矢野特殊自動車の大久津様に色々と案内して頂きました。展示ブースに着くとびっくり！受付のすぐ横の目立つ位置にアートトラックが展示されていました。今回のプロジェクトにおいては大久津様には色々とお気遣いをいただき、感謝の言葉もありません。

会場内を見ると、やはり業界関係者が多かったのですが、無邪気にはしゃいでいる親子連れの姿なども見受けられました。ブースに来ると真っ先にボックスの中や車体の下周りを見に行く人（ライバル業者？）も多く、びっくりしましたが、何はともあれ、技術面をPRしている企業のブースが多い中で、アートトラックは非常に存在感があったと思いますし、私たちも色々勉強をさせて頂きました。

ご来場いただいた皆様、株式会社矢野特殊自動車様、本当にありがとうございました。

編集局だより



待ちに待ったアートトラックが完成しました！初めて完成した車を見た時は、思わず笑みが零れてしまいました。今までのトラックのイメージを覆すようなかわいらしいデザインに仕上がり、大変うれしく思います。アートトラックが無事完成できましたのも、皆様の多大なるご協力のおかげです。心よりお礼申し上げます。もうすでに福岡 ⇄ 東京には大型車、博多エリアには中型車が走り回っていますので、皆様のお目に触れる機会もあるかと思います。冬を迎える今から寒くなっていますが、このアートがきっと皆様の心を温かくしてくれるのではないかと思います。このプロジェクトが永く続けていくよう願っております。皆様、これからも宜しくお願ひ致します。（左：宮本）

無事アートトラックの10t車、4t車が完成し業務を開始しました。御先などから反響があったという報告をドライバーから受けてとても嬉しく、そしてホッとしています。不安だらけで始めた4月から約半年、ようやくひとつの目的を達成することができました。完成披露にてトラックが登場した際、思わず“ほろっ”と涙が出てきました。初めての経験ばかりでどうしていいのかわからない事も多々ありましたが、実行委員会のメンバーや周りの方々の支援があったからこそできたことだと思っています。今思うと貴重な経験ばかりをさせて頂きました。この場をかりてお礼申し上げます。これからも私たちをわくわく、温かい気持ちにさせてくれる、アートをボックスに載せた当社のトラックが次々に誕生し、日本全国を走り、このような活動を多くの皆様に知って貰える事を願っています。（中：室屋）

4月から始動した、アートトラック・プロジェクト。最初は「デザインを選ぶだけで簡単！」と思っていましたがやらなければならない事が矢継ぎ早に出てきて、自分の考えの甘さを痛感させられました。初めてすることばかりで不安と、また自分の不甲斐なさを感じました。しかし、このプロジェクトの委員になったことは私にとって、いい経験になったと思いますし、改めて、周りの方々に支えて頂き、ご協力して頂いたからこそ、無事にアートトラックが完成したのだと思います。ご協力、応援して下さった皆様には本当に感謝しています。ありがとうございます。10t車、4t車ともに業務を開始しています。皆様がトラックを見たとき、“かわいいね”と心が少しでも和む存在となれば嬉しいです。そして、これからもこのような活動を会社全体で取り組んでいけたらと思います。（右：白石）